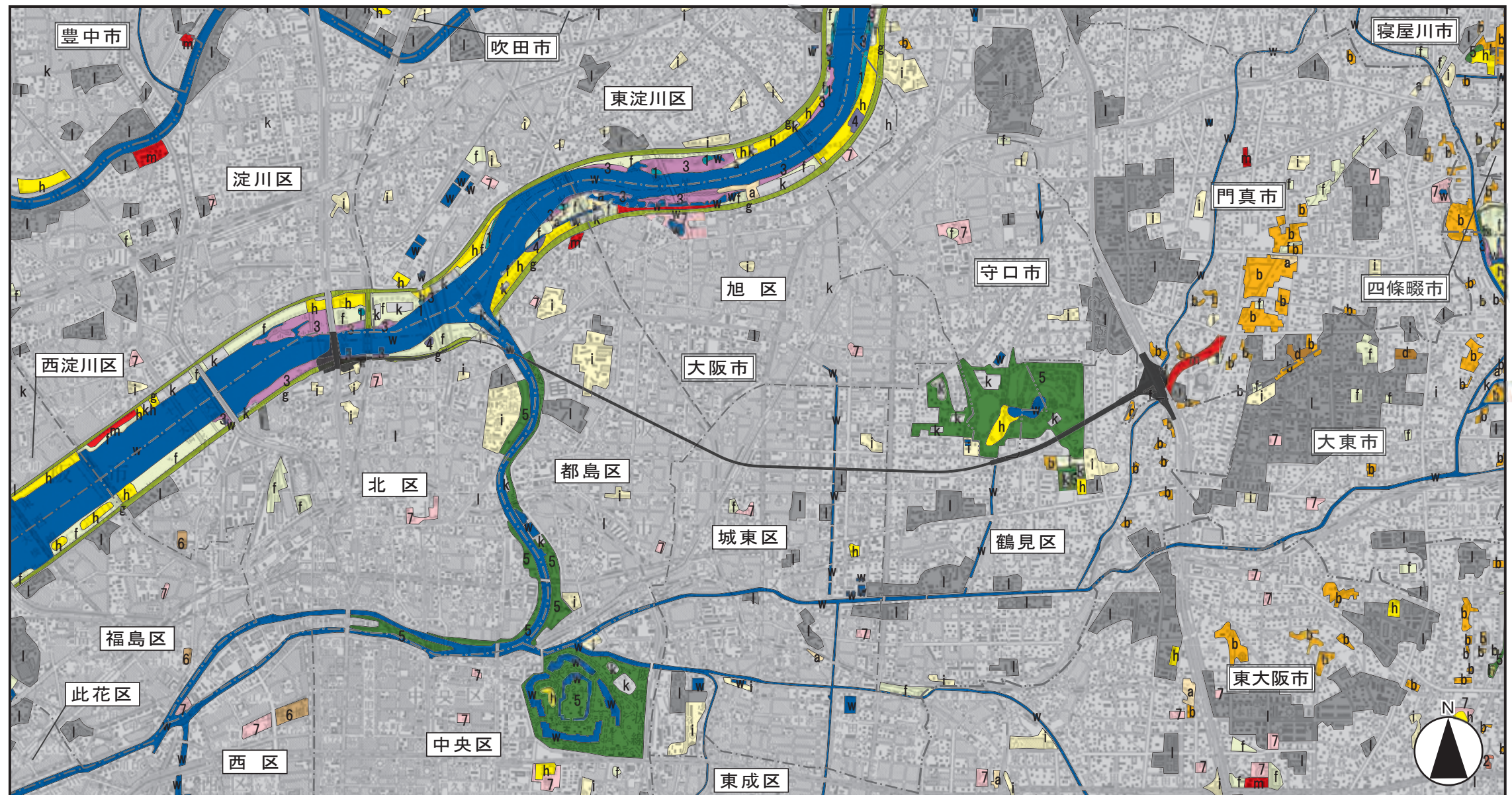


5) 植生の状況

調査区域の植生の状況は、図 4-1-14 に示すとおりです。

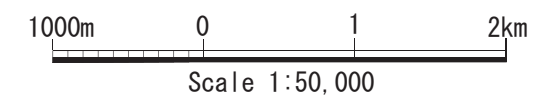
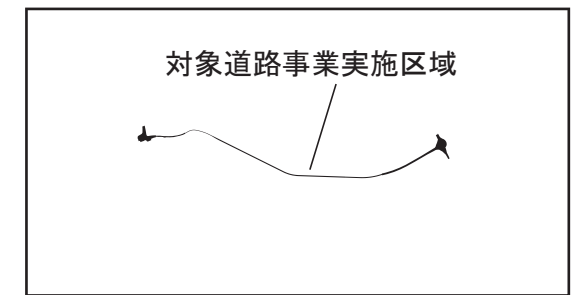
調査区域の植生は、大半が市街地で植生のない範囲が広がっています。市街地の中で、まとまった樹林がみられるのは大阪城公園と鶴見緑地で、クスノキ、サクラ類などが植栽されています。また、旧淀川（大川）沿いにも植栽の樹林が連続して分布しています。

草地は全体的に少なく、淀川の河川敷やワンド沿いにヨシクラス、オギ群集などの水辺植生が分布しています。また、門真市や東大阪市では、水田雑草群落が市街地や工場地帯の中にパッチ状に分布しています。



凡			例		
記号	番号	名称	記号	番号	名称
	1	ヤナギ高木群落		d	畑放棄雑草群落
	2	アベマキコナラ群落		f	路傍・空き地雑草群落
	3	ヨシクラス		g	牧草地
	4	オギ群集		h	ゴルフ場・芝地
	5	その他植林		i	緑の多い住宅街
	6	クスノキ植林		k	市街地
	7	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等		l	工場地帯
	a	畑地雑草群落		m	造成地
	b	水田雑草群落		w	開放水域

出典：第6回第7回自然環境保全基礎調査 植生調査（平成11年以降、環境省生物多様性センターホームページ）



図名

図4-1-14 現存植生図

6) 生態系の状況

(1) 生態系の状況の把握の手順

生態系の状況の把握の手順は、図 4-1-15 に示すとおりです。

生態系を構成する地形等に係る情報及び植生に係る情報の整理から、各構成要素の相互関係を解析し、自然環境の類型区分を行い、さらに類型区分の分布状況及び類型区分と動植物相の関連性を整理することにより、生態系の状況を把握しました。

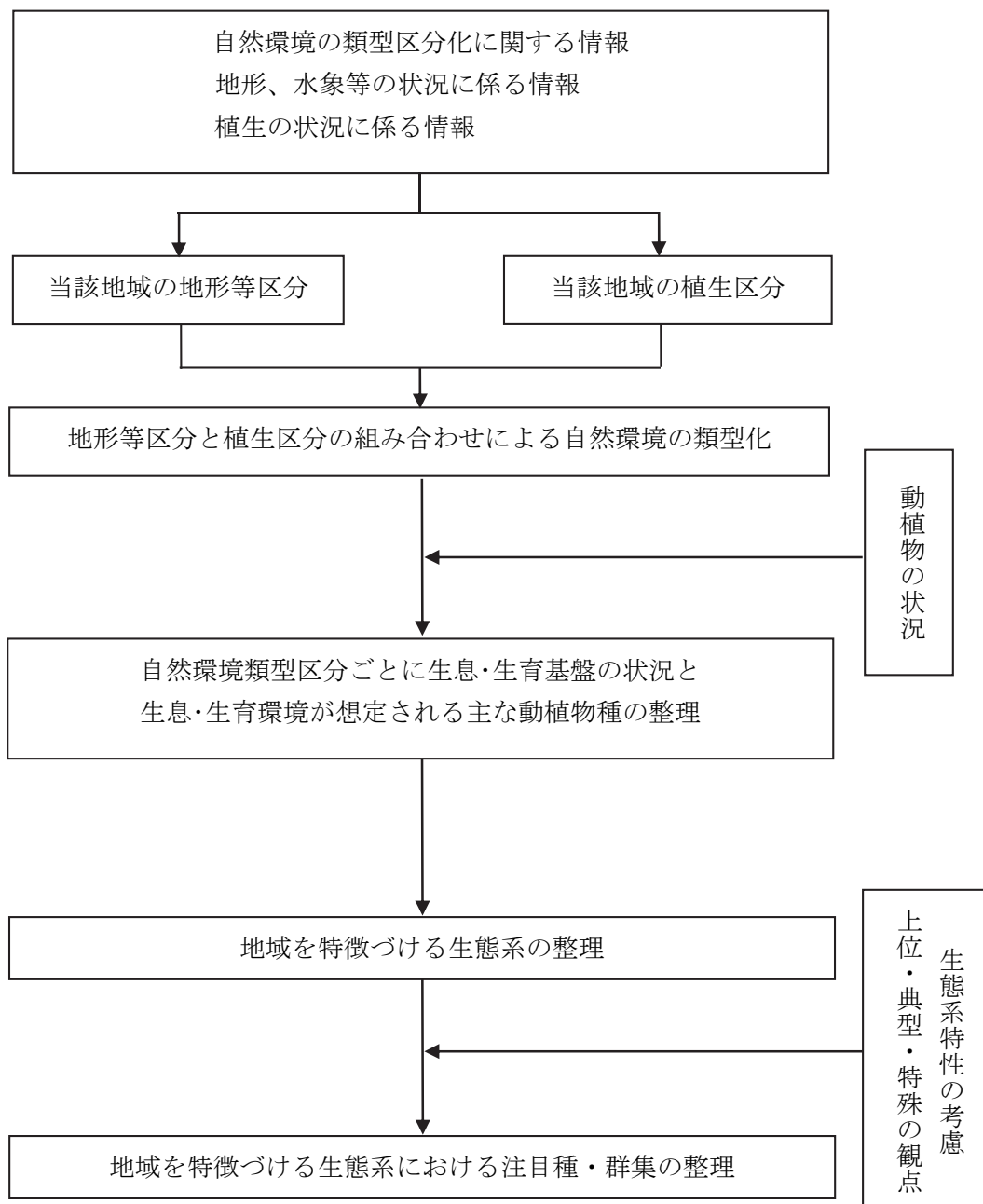


図 4-1-15 生態系の状況の把握の手順

(2) 自然環境の類型化に係る状況

① 地形等の区分について

調査区域の地形等の区分は、表 4-1-34 に示すとおりです。

地形等の区分にかかる情報は、「地形の概況」「地質の概況」「土壌の概況」及び「水象の概況」より把握し、2 種類に区分しました。

「低地」の地形は、三角州が大半を占めており、一部に丘陵地や砂礫台地が分布しています。地質は、沖積層が大部分を占め、部分的に段丘層が分布します。土壌は、市街化による影響を広く受けており、調査区域東側に細粒灰色低地土壌などが分布しています。水象は、大阪城の内堀・外堀や神崎川、旧淀川（大川）、寝屋川、城北川などが分布しています。

「河川」は淀川本流及びその河川敷に成立する地形です。土壌は、砂洲未熟土壌が分布しています。

表 4-1-34 地形等の類型区分の構成

地形等の区分	地形	地質	土壌	水象
低地	丘陵地	段丘層	人工改変地(市街地) 細粒灰色低地土壌、 灰色低地土壌など	大阪城の内堀・外堀
	砂礫台地			—
	三角州	沖積層		神崎川、旧淀川（大川）、寝屋川、城北川など
河川			砂洲未熟土壌 (河川沿い等)	淀川 (ワンド、河川敷を含む)

② 植生等の区分について

調査区域の植生等の区分は、植生または土地利用の種類と分布状況により、表 4-1-35 に示す 10 種類に区分しました。なお、植生及び土地利用の名称は、前掲の図 4-1-14 に示す現存植生図の凡例の名称を用いました。

植生等の区分は、大きくは「樹林地」「草地」「公園」「市街地」「開放水域」に分かれますが、その分布状況により、市街地に分布するもの（表中の区分で A を付記）と淀川に分布するもの（表中の区分で B を付記）とに分かれます。

表 4-1-35 植生区分の状況

植生等の区分	植生または土地利用の種類	分布状況
樹林地 A	クスノキ植林、その他植林など	大阪城公園や鶴見緑地などの公園内、旧淀川（大川）沿いなどに分布
草地 A	畑地雑草群落、水田雑草群落、路傍・空き地雑草群落など	門真市や東大阪市などに点在
公園 A	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等、ゴルフ場・芝地	大阪城公園や鶴見緑地などの公園内、市街地の中に点在
市街地 A	緑の多い住宅街、市街地、工場地帯、造成地	市街地の大半を占める
開放水域 A	開放水域	大阪城公園や鶴見緑地などの公園内、旧淀川（大川）沿いなどに分布
樹林地 B	ヤナギ高木群落	淀川（ワンド、河川敷を含む）に分布
草地 B	ヨシクラス、オギ群集など	
公園 B	ゴルフ場・芝地	
市街地 B	市街地、造成地	
開放水域 B	開放水域	

③ 当該地域における自然環境類型区分

調査区域における自然環境の類型区分については、地形等の区分と植生等の区分の組み合わせから調査区域における自然環境の類型化を検討し、表 4-1-36 に示すとおり、10 種類の自然環境類型区分を設定しました。また、自然環境類型区分の分布状況は図 4-1-16 に示すとおりです。

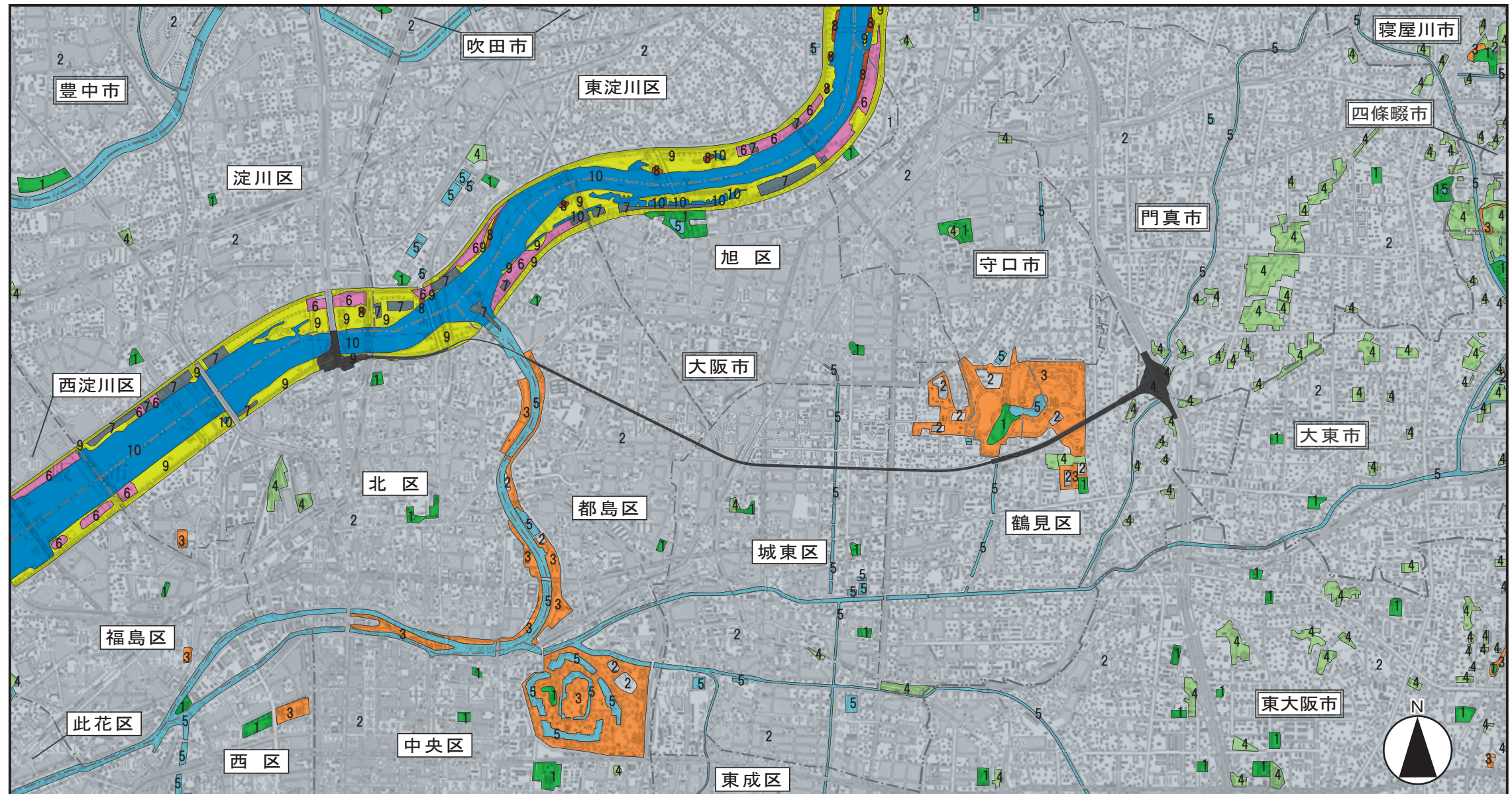
調査区域の低地の大半は「低地：市街地」に類型化され、大阪城公園及び鶴見緑地、旧淀川（大川）の植林地などは、「低地：樹林地」に類型化されます。

また、門真市や東大阪市には、水田・畑地雑草群落を主な基盤環境とした「低地：草地」がパッチ状に分布しています。

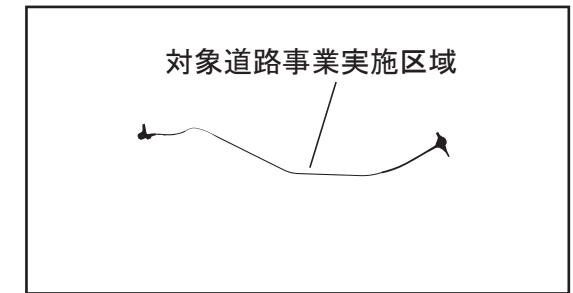
これに対し、淀川には広く「河川：開放水域」が分布し、河川敷にはヨシクラス、オギ群集を主な基盤環境とした「河川：草地」が分布しています。

表 4-1-36 当該地域における自然環境類型区分の考え方

自然環境類型区分		類型区分の属性		主な基盤環境
		地形等の区分	植生等の区分	
1	低地：樹林地	低地	樹林地 A	クスノキ植林、その他植林など
2	低地：草地		草地 A	畑地雑草群落、水田雑草群落、路傍・空き地雑草群落など
3	低地：公園		公園 A	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等、ゴルフ場・芝地
4	低地：市街地		市街地 A	緑の多い住宅街、市街地、工場地帯、造成地
5	低地：開放水域		開放水域 A	旧淀川（大川）、城北川、寝屋川、大阪城公園の堀、鶴見緑地の大池など
6	河川：樹林地	河川	樹林地 B	ヤナギ高木群落
7	河川：草地		草地 B	ヨシクラス、オギ群集など
8	河川：公園		公園 B	ゴルフ場・芝地
9	河川：市街地		市街地 B	市街地、造成地
10	河川：開放水域		開放水域 B	淀川（ワンドを含む）



凡 例		
記号	番号	名称
	1	低地：公園
	2	低地：市街地
	3	低地：樹林地
	4	低地：草地
	5	低地：開放水域
	6	河川：公園
	7	河川：市街地
	8	河川：樹林地
	9	河川：草地
	10	河川：開放水域



1000m 0 1 2km
Scale 1:50,000

図名

図4-1-16 自然環境の類型区分図

調査区域に設定した 10 種類の自然環境類型区分について、それぞれの環境の特徴及び分布状況を表 4-1-37 に整理しました。

表 4-1-37 自然環境類型区分の特徴の整理

自然環境類型区分	自然環境類型区分の特徴	分布概況
低地：樹林地	市街地の大規模公園や、河川沿いに植栽された樹林帯が大半を占める。高度に都市化が進んだ市街地内において、数少ないまとまった樹林地となっている。	大阪城公園や鶴見緑地などの公園内、旧淀川（大川）沿いなどに分布
低地：草地	市街地に点在する水田・畑地雑草群落、路傍・空き地雑草群落などからなっている。	門真市や東大阪市などに点在
低地：公園	市街地の大規模公園や街区公園等に存在する芝地、植栽樹をもった公園などからなっている。	大阪城公園や鶴見緑地などの公園内、市街地の中に点在
低地：市街地	調査区域の大半を占め、市街地や工場地帯、造成地などからなっている。	大阪市を中心に調査区域に広く分布
低地：開放水域	市街地の大規模公園や、淀川の放水路が大半を占める。高度に都市化が進んだ市街地内において、数少ないまとまった開放水域となっている。	大阪城公園や鶴見緑地などの公園内、旧淀川（大川）沿いなどに分布
河川：樹林地	淀川の河畔林を形成し、動植物の生息・生育基盤となっている。	淀川（ワンド、河川敷を含む）に分布
河川：草地	淀川の水辺環境を特徴づけるヨシ、オギなどの湿性植物群落と堤防植生からなり、動植物の生息・生育基盤となっている。	
河川：公園	淀川の河川敷のうち、ゴルフ場や芝地（河川公園）として利用されている環境類型である。	
河川：市街地	淀川の河川敷のうち、造成地やグラウンドなどの植生がほとんど見られない環境類型である。	
河川：開放水域	淀川の本川やワンド部からなり、多くの動植物の生息・生育基盤となっている。	